

集団経営の視点での授業づくりが生徒の学力を伸ばす

全日本中学校長会総務部長／東京都中学校長会副会長 大江近（東京都渋谷区立上原中学校校長）

新課程の実施により、学力下位層の生徒がますます学ぶ意欲を失い、上位層との学力格差が拡大することが懸念されている。下位層の生徒が学ぶ喜びを味わえる授業をどう構築していくか。

そのポイントについて、全日本中学校長会総務部長である大江近校長にお話を伺った。

授業時数の増加で 学力格差が広がる危険が

2012年度に全面实施される新課程では、授業時数が増加に転じます。しかし、授業時数が増えたからといって、学力の向上に直結するわけではありません。むしろ、授業時数が増加するからこそ、授業で置き去りにされがちな学力下位層への手立てをこれまで以上に考える必要があるでしょう。

まず取り組むべきは、授業の質そのものの改善です。確かに、放課後の補習時間の確保や課題の出し方を工夫するといった取り組みも大切ですが、「子どもが学校で最も多くの

時間を過ごすのは授業である」という基本を再確認したいものです。

その際、ポイントとなるのは、「集団で学ぶ」という中学校の特性を生かしながら、下位層を伸ばす授業をつくり上げることです。下位層の生徒の多くは、自分に自信がない↓発言できない↓授業が分からない↓学習の方法が分からない、という負のスパイラルに陥っています。これを、集団の力を生かして、学習参加に導くのです。

例えば私の勤務校では、5分でもいいから一斉授業に少人数学習を取り入れるという試みをしています。全員で問題を解いた後に、5、6人のグループを作り、生徒が互いに教

え合う場面を設けるのです。下位層の生徒は、上位層の生徒から教わることで、問題の解き方が分かります。一方、上位層の生徒は、下位層の生徒に教えることによって、問題についてより本質的な理解が深まります。

一見、単純なことのように聞こえるかもしれませんが、こうした授業を実践するために、教師一人ひとりが教科に関する「専門的知識」と、実際に授業を運営するための「集団経営力」の両方を備えていなければなりません。特に中学校の場合、重要になるのが集団経営力です。上位層の生徒の知的好奇心を揺さぶりつつ、下位層の生徒にも学ぶ喜びを味わえる授業を実践するには、クラスが一つ

学力下位層が伸びる授業づくり



おおえ・ちかし◎教職歴35年。担当教科は社会科、道徳。東京都内の公立中学校教諭、東京都教育庁指導部主任指導主事、人事部管理主事、義務教育心身障害教育指導課長を経て現職。2010年4月、全日本中学校長会総務部長・東京都中学校長会副会長に就任。モットーは、「責任の遂行、迷ったら苦しいほうを選べ」

になって学びに向かえるように、上位層の生徒が下位層の生徒を馬鹿にしない人間関係を構築することが必要だからです。

こうした人間関係づくりはクラス担任の仕事と捉えがちですが、決してそうではありません。学級集団は、学級活動と共に日頃の教科の授業を通じても形成されます。教科担任が日頃の授業で、小グループによる話し合いの場を設けているかどうか、下位層の生徒の発言の機会を保障しているかが鍵を握ると思います。学級の集団経営における縦軸がクラス担任なら、横軸は教科担任なのです。

研修の充実で 校内の集団経営力を高める

教師に必要とされる「専門的知識」と「集団経営力」のうち、教科に関する「専門的知識」は、個々の教師が自分で身に付けることも出来るでしょう。一方、「集団経営力」は教師同士で互いに高め合うことが不可欠です。

そこで校長に求められるのは、校内研修の充実です。研修というと、「講師を招いて話を聞く」というイメージがあるかもしれませんが、一番大切なのは、今、目の前にいる生

徒を巡って、教師が率直に議論できる場を設けることです。

例えば、「授業に集中できていない生徒が多い」という課題があったとします。研修では、「なぜ集中できていないのか」という仮説を立て、「どうすれば集中できるようにするか」という方策を議論します。そして方策が定まったら実践し、その結果を持ち寄って、またみんなで話し合います。こうした校内研修を繰り返すことで、教員の「集団経営力」が高まっていくのです。

こうした研修を、本校では月1回実施しています。校長の役割は、議論を実質的なものにするために、適切な研修課題を設定することです。そのためには日頃から授業見学をするなどして、現場で今、課題になっていることについて敏感でなくてはいけません。

また、課題解決の糸口が見えない時には、より高い視点から教師にヒントを示すのも校長の大事な役割です。私は週1回、「かたらい」というA4版1枚のプリントを教師に配り、今の時代に求められる学力や本校の教科指導の課題について分かりやすく説明したりしています。

校長が軸となり、教師の連携がうまくいけば、教師がスクラムを組んで生徒の学力を伸ばす態勢が出来るはず。新課程の全面実施を目前にして、学校全体としての力を高めることが求められています。